

授業科目 公衆栄養学実習II

【担当教員名】 村山伸子		対象学年	3	対象学科	健康
		開講時期	後期	必修・選択	必修
		単位数	1	時間数	45
【概要・一般目標：G10】 地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析し、それらを統合的に評価・判定する能力を養う（1）。また、保健・医療・福祉・介護システムの中で（2）、栄養上のハイリスク集団の特定（3）とともにあらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価（4）の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を修得する。さらに各種サービスの調整、人的資源など社会資源の活用（5）、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理などの仕組み（6）について理解する。					
【学習目標・行動目標：SBO】 地域保健・栄養活動に大きな位置を占める保健所や市町村保健センター等において、住民の健康の保持増進のために実施されている各種の事業を通じて、以下のうちいくつかの事項について体験し、栄養行政のしくみを説明する、地域の課題を把握する、地域の課題と既存の対策事業と関係づける、事業の評価方法を述べる。 1. 健康・栄養問題と関連要因の分析とアセスメント、地域栄養計画と評価 2. 健康・栄養上のハイリスク集団の特定 3. 保健・医療・福祉・介護システムの把握と連携・活用 4. 栄養関連プログラムの作成・実施・評価 5. 社会資源の支援、育成、連携、活用 6. 栄養情報と食物の管理（食環境づくり）					
回数	授業計画・学習の主題			SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	事前の学内オリエンテーション				オリエンテーション
2	<保健所：以下1～6>				
3	1. 地域における実態把握、分析・国民栄養調査準備・県民栄養調査準備、地域栄養活動の企画、調整、参画			1・2	実習
4	2. 健診データや各種データの整理、分析			1・2	実習
5	3. 連携の機能強化・医療、福祉関係等とのネットワークづくり・民間活力の導入			3	実習
6	4. 専門的・広域的栄養指導・高度な専門技術・医療機関との連携・広域的、モデル的・糖尿病、難病など			3	実習
7	5. 組織の育成・指導、市町村の支援、人材育成（教育、研修）・管内栄養士・県食生活改善推進委員協議会支部・調理師・栄養関連企業・栄養士養成施設実習生（保健所）			4～6	実習
8	6. 情報収集と提供、給食施設指導、栄養関連企業等への指導・栄養成分表示・特別用途食品			4～6	実習
9	<市町村：以下1～6>				
10	1. 地域の実態把握、分析、施策化、評価・住民ワークショップ、インタビュー・地域アセスメント・地域栄養計画立案、評価			1・2	実習
11	2. 健診データや各種データの整理、分析			1・2	実習
12	3. 医療、福祉関係機関等の連携・協力体制の整備			3	実習
13	4. 住民に対する健康教育、栄養相談・母子・学童・思春期・成人・高齢者、啓発普及・健康まつり			3	実習
14	5. 地区組織育成・食生活改善推進委員の養成・市町村食生活改善推進連絡協議会、人材育成活用・在宅栄養士・ホームヘルパー			4～6	実習
15	6. 栄養情報の収集と提供			4～6	実習
16	事後報告会、報告書作成			1～6	個人またはグループ学習
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)					
参考書					
その他の資料		新潟医療福祉大学 健康栄養学科 臨地実習の手引き			
【評価方法】 評価基準に基づいた自己評価、実習先指導者等からの評価、レポートによる教員の評価、および事前事後の学習状況の評価による。			【履修上の留意点】 別に定める、健康栄養学科の臨地実習の基準を満たしていること。 事前に、実習先指導者、本学担当教員、学生の3者での協議のもとに、学生自身が学習目標を立てること、実施し、自己評価すること。		